



## 2025年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年4月23日

上場会社名 フューチャー株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4722 URL <https://www.future.co.jp>  
 代表者(役職名) 代表取締役会長兼社長(氏名) 金丸 恭文  
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員(氏名) 松下 恭和 TEL 03-5740-5724  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年12月期第1四半期の連結業績(2025年1月1日~2025年3月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA ※		営業利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期第1四半期	17,320	15.3	4,209	12.8	3,335	△2.4	1,997	△8.8
2024年12月期第1四半期	15,022	7.6	3,730	8.2	3,417	7.8	2,189	△0.2

(注) 包括利益 2025年12月期第1四半期 1,948百万円(15.2%) 2024年12月期第1四半期 1,690百万円(△38.4%)

	1株当たり 四半期純利益
	円 銭
2025年12月期第1四半期	22.54
2024年12月期第1四半期	24.72

※EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年12月期第1四半期	88,872	55,576	62.5	627.08
2024年12月期	92,048	55,489	60.3	626.10

(参考) 自己資本 2025年12月期第1四半期 55,576百万円 2024年12月期 55,489百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	21.00	—	21.00	42.00
2025年12月期	—	—	—	—	—
2025年12月期(予想)	—	23.00	—	23.00	46.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年12月期の連結業績予想(2025年1月1日~2025年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	35,100	6.5	8,480	6.7	6,840	△0.9	4,770	△1.9	53.82
通期	76,000	8.8	19,210	10.2	16,050	9.4	11,460	11.0	129.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年12月期 1 Q	95,328,000株	2024年12月期	95,328,000株
② 期末自己株式数	2025年12月期 1 Q	6,700,416株	2024年12月期	6,700,416株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年12月期 1 Q	88,627,584株	2024年12月期 1 Q	88,583,837株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
(第1四半期連結累計期間)	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における経済環境を見ると、ロシア・ウクライナ間の紛争に加え、米国トランプ政権による保護主義的な貿易政策等により世界経済の不確実性は増しております。また、国内の物価及び金利は上昇傾向にあります。

こうした経済環境下でも、企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）による業務改革、生産性の向上による深刻な人手不足への対応、国際情勢を踏まえたBCP（事業継続計画）の観点からの企業全体のサプライチェーンの見直し等、ITを通じた経営改革、業務改善の動きは引き続き旺盛であり、活発なIT投資が続いています。また、生成AIを活用した新たなデジタルサービスの開発、AIを活用した業務効率化の動きが加速しています。

このような状況のもと当社グループは、前期第2四半期から損益を連結した株式会社リヴァンプの業績が通期寄与することから、売上高は前年同期比で増収となった一方、フューチャーアーキテクト株式会社において、「次世代バンキングシステム」、「Future BANK」、政府系の大型公共案件等、複数の大規模プロジェクトの新規獲得に向けた営業活動に注力した結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は17,320百万円(前年同期比15.3%増)、営業利益は3,335百万円(同2.4%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、1,997百万円(同8.8%減)となりました。

なお、上記記載のとおり、フューチャーアーキテクト株式会社は、当期第2四半期より複数的大型プロジェクトを計画通りに受注し、開始することから、上期及び通期の業績予想に変更はございません。

各セグメントの業績(売上高・営業利益)については以下のとおりです。

#### ① ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社（フューチャー株式会社のテクノロジー部門を含む）は、複数の顧客が導入し業務効率化に寄与している、当社開発のAIソリューション「Future Edge AI」が、大手物流企業に導入されました。また、医療機器承認プログラムの開発実績と経験に基づいたSaMD（Software as Medical Device：プログラム医療機器）コンサルティングサービスとして株式会社アイ・ブレインサイエンスと共同開発した日本初の認知症診療支援に用いる検査機器ソフトウェアである「ミレボ®」の販売を開始いたしました。

当社の中長期的な成長に資する、知財を活用した案件については、2行目の「次世代バンキングシステム」導入は下期のリリースに向けて開発・テストフェーズが順調に進捗しているほか、アパレル向け基幹プラットフォームシステム「Future Apparel」導入の大型プロジェクトにおける設計フェーズが順調に進捗しております。また、政府が主導する医療DXに関連するシステム構築のプロジェクトも順調に進捗しております。

一方で、「次世代バンキングシステム」、「Future BANK」、政府系の大型公共案件等、複数の大規模プロジェクトの新規獲得に向けた営業活動に注力した結果、前年同期比で売上高は横ばい、営業利益は減益となりました。

なお、複数行の「Future BANK」新規導入、政府系の大型公共案件等、大規模プロジェクトは当期第2四半期から計画通りに開始いたします。

フューチャーインスペース株式会社は、定常的な保守運用サービスに加え、既存顧客のシステム基盤更改及びクラウド移行案件の開発が引き続き好調に推移し、前年同期比で増収増益となりました。

Future One株式会社は、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「InfiniOne」の販売において、鉄鋼業など業界特化型の営業展開による新規受注の拡大に加え、付加価値の提案による既存顧客からの受注が拡大し、前年同期比で増収増益となりました。

フューチャーアーティザン株式会社は、DXコンサルティング案件の価値訴求が売上に寄与したものの、プロジェクトの受注が計画を下回ったことに加え、グループ間の事業移管の影響及びソフトウェアの償却負担の増加などから、前年同期比で減収減益となりました。

フューチャーセキュアウェイブ株式会社は、セキュリティサービス案件の順調な進捗に加え、インシデント対応、診断、対策・訓練などの各種セキュリティサービスを組み合わせて顧客に提供したことなどにより利益率が向上し、前年同期比で増収増益となりました。

株式会社リヴァンプは、プライベートエクイティファンドや経営者の実務を支援する経営マーケティング事業及び基幹システム刷新や全社構造改革のコンサルティングを行うDX事業がともに計画を上回りました。加えて、経営マーケティング事業において、支援先の企業価値向上に伴う成功報酬売上を計上しました。同社は前第2四半期連結会計期間から新規に損益を連結しており、当連結会計年度より業績が通期寄与します。

この結果、本セグメントの売上高は15,535百万円(前年同期比19.1%増)、営業利益は3,558百万円(同0.7%増)と増収増益となりました。

## ② ビジネスイノベーション事業

株式会社YOCABITOは、プライベートブランドの強化及びリニューアルの効果により収益性や粗利率は向上しているものの、アウトドア市場での苦戦が続いていることや、ナショナルブランド商品の売上が伸び悩んだことにより、前年同期比で減収、営業赤字となりました。

東京カレンダー株式会社は、コンテンツ事業における広告売上及び「東カレデート」等のネットサービス収入が堅調に推移したことにより、前年同期比で増収増益となりました。

ライブリッツ株式会社は、スポーツチーム向けの会員管理・ECパッケージ「FastBiz」を複数のプロ野球チーム及びプロサッカーチームに導入する案件が計画通りに進捗したものの、新規顧客の案件獲得やスポーツ及び地域における新規事業の立ち上げに時間を要した結果、前年同期比で減収となりましたが、各種コストを抑制したことから増益となりました。

株式会社キュリオシティは、腕時計などの海外ラグジュアリーブランドのストアデザインが順調に進捗しているものの、前年同期に完了したジュエリーブランドの複数の大型ストアデザインが当期はないことから、反動減により減収減益となりました。

この結果、本セグメントの売上高は1,783百万円(前年同期比9.6%減)、営業損失は118百万円(前年同期は営業損失38百万円)となり、前年同期比で減収減益となりました。

(注) 上記のセグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高又は振替高を調整前の金額で記載しておりません。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は88,872百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,175百万円減少しました。その主な要因は、配当金及び法人税等の支払による現金及び預金が減少(前連結会計年度末比△3,247百万円)したこと等によるものです。

負債は33,296百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,262百万円減少しました。その主な要因は、未払法人税等が減少(同△2,033百万円)したこと等によるものです。

純資産は55,576百万円となり、前連結会計年度末に比べて86百万円増加しました。その主な要因は、利益の積み上げ等により利益剰余金が増加(同+136百万円)したこと等によるものです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	32,374	29,127
受取手形、売掛金及び契約資産	15,208	15,366
商品及び製品	825	999
仕掛品	20	28
その他	2,358	2,406
貸倒引当金	△0	—
流動資産合計	50,787	47,928
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,981	2,144
減価償却累計額	△1,486	△1,512
建物及び構築物(純額)	494	632
土地	0	0
その他	2,769	2,056
減価償却累計額	△2,235	△1,473
その他(純額)	533	583
有形固定資産合計	1,029	1,216
無形固定資産		
のれん	11,168	10,940
ソフトウェア	3,323	3,212
顧客関連資産	9,982	9,717
技術関連資産	1,010	979
その他	11	12
無形固定資産合計	25,496	24,862
投資その他の資産		
投資有価証券	13,048	13,144
敷金及び保証金	1,559	1,565
繰延税金資産	0	—
その他	133	161
貸倒引当金	△6	△6
投資その他の資産合計	14,735	14,865
固定資産合計	41,261	40,944
資産合計	92,048	88,872

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,239	1,488
1年内返済予定の長期借入金	2,856	2,856
未払金	2,636	1,420
未払法人税等	3,480	1,446
賞与引当金	293	1,702
品質保証引当金	96	85
プロジェクト損失引当金	33	20
その他	5,237	4,203
流動負債合計	15,874	13,222
固定負債		
長期借入金	15,000	14,286
資産除去債務	355	442
繰延税金負債	5,253	5,260
その他	74	83
固定負債合計	20,685	20,073
負債合計	36,559	33,296
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,000	4,000
資本剰余金	146	146
利益剰余金	48,227	48,363
自己株式	△2,186	△2,186
株主資本合計	50,187	50,323
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,260	5,229
繰延ヘッジ損益	5	△8
為替換算調整勘定	36	30
その他の包括利益累計額合計	5,302	5,252
純資産合計	55,489	55,576
負債純資産合計	92,048	88,872

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
売上高	15,022	17,320
売上原価	7,730	9,203
売上総利益	7,292	8,117
販売費及び一般管理費		
役員報酬	163	227
給料及び賞与	1,714	2,106
雑給	81	98
地代家賃	230	331
研修費	101	130
研究開発費	296	366
減価償却費	112	378
採用費	242	212
のれん償却額	47	227
その他	884	702
販売費及び一般管理費合計	3,874	4,782
営業利益	3,417	3,335
営業外収益		
受取利息	1	13
有価証券利息	—	1
受取配当金	—	0
持分法による投資利益	15	42
為替差益	36	—
その他	4	12
営業外収益合計	58	70
営業外費用		
支払利息	4	44
投資事業組合運用損	11	50
為替差損	—	54
金融手数料	220	—
その他	0	1
営業外費用合計	235	152
経常利益	3,240	3,253
税金等調整前四半期純利益	3,240	3,253
法人税、住民税及び事業税	1,307	1,342
法人税等調整額	△256	△86
法人税等	1,051	1,256
四半期純利益	2,189	1,997
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,189	1,997



(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△503	△30
繰延ヘッジ損益	3	△13
為替換算調整勘定	1	△5
その他の包括利益合計	△498	△49
四半期包括利益	1,690	1,948
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,690	1,948

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。これによる前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注3)
	ITコンサル ティング&サ ービス事業	ビジネスイノ ベーション事 業	計				
売上高							
(1) 外部顧客への 売上高	13,022	1,943	14,966	55	15,022	—	15,022
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	18	28	47	117	164	△164	—
計	13,041	1,972	15,014	172	15,187	△164	15,022
セグメント利益 又は損失(△)	3,533	△38	3,495	8	3,504	△86	3,417

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハンドボールチームの運営事業、有価証券投資・保有・運用事業等を含んでおります。  
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引の消去及び持株会社(テクノロジー部門を除く)の収益並びに費用の額であります。  
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注3)
	ITコンサル ティング&サ ービス事業	ビジネスイノ ベーション事 業	計				
売上高							
(1) 外部顧客への 売上高	15,517	1,754	17,272	48	17,320	—	17,320
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	18	28	46	117	164	△164	—
計	15,535	1,783	17,319	165	17,484	△164	17,320
セグメント利益 又は損失(△)	3,558	△118	3,439	△65	3,374	△39	3,335

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハンドボールチームの運営事業、有価証券投資・保有・運用事業等を含んでおります。  
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引の消去及び持株会社(テクノロジー部門を除く)の収益並びに費用の額であります。  
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
減価償却費	265百万円	646百万円
のれんの償却額	47	227